

# 2024年を 顧みる

中大規模木造建築

躯体にはシェルターの時間耐火の木造耐火部材「木ぐるみCT」や「D」が使われている。日建設計と共同開発した「豊田」の「合成梁構造」など、複数のオリジナル技術が使われている。また、羽田空港で新たな工夫がこらされている。また、国内最大級の

の木造校舎で木三学の「六戸学園」の見学会も開かれた。7月には住友林業が建てたハイブリッドの「(仮称)京橋第一生命ビルディング」の見学会が開かれた。

技術面建設が可能な構造を対した新たな。4月に現しの

## つな木つながるCLUBを発足

### 製品普及を通じて国産材活用進める

長谷萬など12社

日建設計(東京都、大松敦社長)の社内ベンチャーNikken Wood Lab(NWL、大庭拓也ラボリーダー)が企画プロデュースし、三進金属工業(大阪府泉北郡、新井宏昌社長)が独自開発した、クランプ金物と45°角製材(JAS品木材調達・加工協力は江間忠木材)で簡単に組み立て、解体、移設が可能な木質ユニット「つな木」。長谷萬(東京都、長谷川泰治社長)が中心となり、同製品の普及を通じて国産材活用を進める有志の取り組みとして、「つな木つながるCLUB」が19日に発足した。

参加会社は、阿部製材所(岩手県奥州市)、呉市)、かねひさ(大江間忠木材(東京都)、阪府岸和田市)、三祐木



19日に日建設計東京ビルで発足式が開かれた

材(神戸市)、藤原商店(東京都、菅沼木材(愛知県新城市)、西尾レントオール(大阪市)、もちこ(静岡市)、長

谷萬、三進金属工業、NWLの合計12社。今後は、つな木の活用事例などのノウハウの蓄積・共有や、新たな活用の用途開発など普及を進めていく考えだ。その結果、森林の健全な維持や地域の活性化を通して持続的社会的の実現に向けた活動を進めていく。

「つな木は、暮らしても、遊ぶの時も、木をつないで人をつなぐ場をつくる」をコンセプトに開発された。日本の様々な地域の木材を用いた

## 木製窓と防犯商品販売に注力

### アルミリサイクル向上も

YKK AP

YKK AP(東京都、魚津彰社長)は23日、東京都内で記者懇談会を開き、2024年の振り返りと25年の方針を話した。魚津社長は、24年を宣伝活動にまい進した1年だったと振り返る。「9月に開いたYKK APフェアをはじめ、ヘルスケア事業や関電工と共同開発す

る。そのために、そうした考えに共感した各地の木材業者がつな木の製造・販売を開始する」や新しい「コト」を生み(長谷萬)。

る建材一体型太陽光発電の実証実験など、プロモーションが多かった。(魚津社長)。一方で、原材料のアルミ地金の高止まりや円安により、コストの上昇に苦しんだ。2030年の中期経営計画の達成のためには、25年以降は、24年に発売したトリプルガラス木製窓「APW651」

の取扱と発に取651のルガラスで、25年以降も木製窓の普及と準備を24年10月など住宅が増える面格子も拡充すコスト削減も目指す。黒部製造(部市)にルミ専用予定。海外事業